

多くのマハゼ

■数多くのマハゼ

今回の調査では、数多くのマハゼを確認した。好天にも恵まれ、蒲生干潟では多くの釣り人がマハゼを釣っていた。Fig.1・2は、釣り人にお願ひして撮影させていただいた写真である。全長15~20cm程度の個体が多く、昨年観察したマハゼよりも大型である。釣り人の話では「先日来たときも20匹くらい釣った。塩竈のよりも大きい」とのことであった。マハゼの他にコトヒキも釣られていた。震災後観察を続けているが、マハゼの数・個体の大きさともに今年は最も大きい。ハゼ釣りの名所としての蒲生干潟が戻ってきたと感じられた。



(Fig.1 マハゼ)

■カニ類の活動

気温が低くなったため、カニ類の活動は不活発になっている。だが、時間をかけて待っていると、巣穴から出てきて摂餌する様子が見られた (Fig.3)。ウェビングをする様子は見られなかった。小型のケフサイソガニが観察された (Fig.4)。ホソウミニナが密集しているのも観察された。



(Fig.2 魚籠の中のマハゼ)



(Fig.3. チゴガニ)



(Fig.4 ケフサイソガニ)



(Fig.5 ホソウミニナ)